

[インフルエンザ予防対策の空間噴霧の導入事例]

1) 特別養護老人ホーム・ユーアイ 21 太陽の家

横浜市、横須賀市、座間市の3施設(入居者総数 431 名)

全施設で朝から晩まで 50ppm 濃度の次亜塩素酸水を 12 時間連続気化噴霧。横須賀市施設では、導入前の 2018 年 12 月～2019 年 3 月に 200 人のインフルエンザ感染者が発生したが、同時期にテスト導入した横浜市施設ではインフルエンザ罹患者数ゼロ。3施設で次亜塩素酸水の導入後は、全施設でインフルエンザ罹患者数ゼロ更新中。

2) サービス付き高齢者向け住宅大手の学研ココファン

2020 年2月から、110 棟(6,000 居室以上)において、各フロアの廊下などの共用

スペースに、1.5L/毎時の噴霧量で次亜塩素酸水の 24 時間連続気化噴霧を実施した。また、清掃時の直接噴霧にも使用した。約6ヵ月の実施期間中、インフルエンザ罹患者数、ノロウイルス罹患者数ともにゼロを更新中。

3) チェリーサポート(鹿児島県鹿屋市:入居者数 80 名)

2019 年 3 月より、廊下などの共用スペースに設置して連続気化噴霧。導入の前年度は、25 名がインフルエンザに罹患したが、2019 年3月以降、17 ヶ月インフルエンザの罹患者数ゼロ更新中。

前述した「一般社団法人次亜塩素化学工業会」に加盟した 12 社では、それぞれ独自に弱酸性次亜塩素水の連続気化噴霧の実施事例を有しており、実施した施設において**弱酸性次亜塩素水を噴霧したことによる居住者の健康被害は皆無**との情報を得ています。

以上のことから、「弱酸性次亜塩素酸水の連続気化噴霧による感染リスクの低減効果」については、以下のことが示唆されます。

1) 常時、気化した安全な濃度の次亜塩素酸が室内空气中に存在することで、ウイルス飛沫核や病原微生物による、エアロゾル感染リスクを低減することが期待できる。

2) 壁面、天井、家具・備品、床面などに付着したウイルス飛沫核や病原微生物に次亜塩素酸が作用し続けて、不活化・殺菌することで、再感染リスクを低減することが期待できる。